

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	豊かな自然に囲まれたこの地域で、利用者一人一人の生活歴と持てる能力を尊重し、地域住民と共に安心して暮らせる場を作るお手伝いをさせて頂いている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も介護職員の一員として、日々のミーティングや月毎のスタッフ会議に参加し、常時話しやすい環境をつくり、職員と共に理念を共有しながら実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会開催時に、地域住民を招き学習会を開いたり、交流会を催す等、実践の中で理解を深めて頂くよう努めている。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員も当地区在住の者が多く、元来地域住民との交流は深い。地域の方が、気軽にお茶を飲みに来るにホームに立ち寄って下さったり、栽培している野菜を持参して下さる機会が多く見られる。また、利用者が楽しんで出来るような、豆選別等の作業に声をかけて下さったりと、地域住民からは常にホームへの気配りをして頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者・管理者ともに地域住民の一員として、会合や地域活動に積極的に参加している。また、個々の職員も地域住民と交流が深く、連携をとりながら活動を行っている。	

グループホーム かあちゃん家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者や地域の高齢者の支援目的のため、地域住民と共に消火訓練や救急法の学習を行っている。また、やしょうま作りやクリスマス会等、地域住民と一緒に参加できる行事を、年に数回開催している。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日々の個々の業務内容や活動を見直す良い機会であり、外部評価は普段気づかない新たな問題点の発見に繋がると職員一人一人が認識している。職員一同、その重要性を理解し、問題の改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者の状況を把握しやすいホーム内で開催され、運営推進委員に事業所の実態を理解して頂いている。また、評価に関する報告を行った上で、話し合いにも参加して頂き、直接意見を頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関する報告・相談を行い、必要に応じ指導・助言を求めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人制度の学習会に参加し、職員にはミーティングの際に伝達し、知識の共有を行っている。またその際、個々の利用者に関しても相談する場を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の資料をもとに、職員間で勉強会を開き、虐待を行わない介護の実践に努めている。		

グループホーム かあちゃん家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず契約内容に関する十分な説明を行い、利用者や家族の理解と納得を得た上で、契約を結んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、常に利用者の声に耳を傾ける関わりを心がけており、不満や意見に対しては即座に対応し改善するよう、職員間の連携も取っている。また、長野市からの安心相談員派遣制度を利用し、外部からも利用者や家族の声が届くように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回施設だよりを発行し、利用者の近況を家族に伝えている。また、家族来所時に、個々の利用者に関する伝達事項や状況報告を行っている。必要時には、電話連絡等にて、随時報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に話を伺う機会を設けるとともに、運営推進会議には家族会代表にも参加して頂いている。また、家族会には安心相談員や苦情相談員にも参加して頂き、内部のみでなく外部からも家族の意見を聞ける場を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況等について、ミーティングやスタッフ会議を利用し相談し、職員の意見を取り入れて、日々の実践に活用している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法で定められた人員よりも手厚い人員を配置し、利用者の外出時や重度利用者への対応・または緊急時にも対応できる体制を整えている。	

グループホーム かあちゃん家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>グループホーム1ユニットのみの経営であるため、就職・退職以外での職員の移動はなく、利用者や職員間に良好な関係が保たれている。(開所3年で退職者はいない)</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>就職時や経験年数に応じて、職員が定期的に認知症研修へ参加する機会を設けている。更に、知識の共有をはかるため、職員間で報告会や勉強会を開催している。また、日々の利用者との関わりの中から、気づいた点等をミーティングで話し合い、介護の質の向上に努めている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>長野圏域のグループホームとの交流会や、認知症のケース検討会に参加したり、また他のグループホームの視察研修を行っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>職員がストレスを溜めないように、運営者から声かけを行ったり、気軽に話し相談できる雰囲気作りに努めている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>資格保持(取得)を給与に反映したり、経験に応じて研修に参加するなど、職員の知識と向上心の育成に努めている。また、職員の意見を運営や介護の実践に取り入れて、想いを反映できる職場を作っている。</p>

グループホーム かあちゃん家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に施設見学を行い、利用者の不安を取り除くよう努めてはいるが、個人の想いを十分に受け止めた上での入所には至らないこともある。	○ 施設見学・面接の機会を多く持ち、利用者の不安の軽減に努めるとともに、個人の想いを十分受け止めた上での入所ができるよう努力していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安や困っていることに関しては、面談を行ったり電話などで聞く機会を作り、受け止める努力をしている。	○ 家族との面談の機会を利用し、家族の不安や悩みを傾聴し、真の相談者としての対応に努める。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを通じての入所依頼が多いが、本人や家族の要望・意向を伺い入所が適切と判断しても、物理的な要因（施設の部屋が満室）などにより、即座に必要なとしている支援を提供できないという実態がある。	○ 他の施設とも連携をとり、本人や家族の意向に沿ったサービスの提供が、より早く行えるよう選択肢の幅を広げておく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、入所前に施設見学に来て頂き、本人や家族に心地よく過ごせる環境かどうか判断して頂いて、決定した上で入所して頂いている。	
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所者と職員は家族の一員という関わりを持ち、作業や娯楽などを通じ、個々の入所者の意向や能力に適した生活の場作りに勤めている。	

グループホーム かあちゃん家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的な報告以外にも、利用者に変化があった場合など家族への連絡は密に行っており、家族の希望をケアに反映させたりと、家族が参加し共に利用者を支援する環境を整えている。家族の中には、自身の悩みを相談されるケースもあり、家族と職員間の関係も良好であると考えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所することにより、利用者がより情緒的に安定した生活を行うケースが多い。そのため、良好な家族関係が築け、結果家族の来所が増えている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を定めてはあるが、家族のみでなく、友人等利用者の馴染みの深い方はいつでも来所でき、希望により外出・外泊ができる環境を作っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有空間を有効に利用し、利用者が談笑したり、共に作業を行えるような環境作りに努めている。利用者が孤立しないよう、職員が声をかけて皆の輪の中に入りやすい雰囲気を作っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じて対応している。退所した後も、来所して利用者や職員と談笑したり、ボランティアとして事業所の活動に関わって下さる家族もある。		

グループホーム かあちゃん家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、個々の利用者の想いや希望を伺い、介護に反映するよう努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などは事前に聴取。入所後の会話や日常生活行動から、個々の入所者の状況を把握し、日々の介護記録に記載している。全ての情報をもとに、職員間のミーティングで話し合い、情報の共有と個々の入所者に合わせた介護に結び付けられるよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者一人一人の生活リズムと体調に合わせた介護を行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人との会話や生活歴・現在の生活状況をもとに介護計画を立案。職員間でのミーティングや家族との話し合いの結果、個々の利用者に合わせて計画を作成し実施に結び付けている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に期間を設け、随時評価し計画の見直しを行っている。また、利用者の変化に応じ、職員や家族のみでなく、必要に応じ医師の意見も取り入れ、新たな計画を作成し、利用者の現在の状況に合った適切な支援が行えるよう努めている。	

グループホーム かあちゃん家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者の介護記録を記載し、職員間の情報共有に努めている。また、ミーティングでも情報の共有と意見交換を行い、日々の介護に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみの経営であるため、提供できる介護サービスは限られている。しかし、ボランティアの依頼等により、利用者一人一人の要望に可能な限り対応できる環境作りに努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	囲碁ボランティア・美容ボランティア・小学生による読書ボランティアなど、人的支援は多く活用している。また、消防署による避難訓練の指導・協力や、保育園・小中学校から年間行事への招待を受けたり、児童の訪問を受けたり等、地域機関からの支援・協力も多く得られている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅介護支援センターや、福祉用具業者の協力のもと、利用者へのサービスの充実を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員が、運営推進委員の役割も担っており、必要に応じ、指導・助言・紹介などの協力を得ている。		

グループホーム かあちゃん家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

グループホーム かあちゃん家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前説明を十分に行い、本人や家族の希望を考慮し、可能な限り本人に適した場へ移動できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人一人の尊厳とプライバシーを尊重した関わりを持つよう努めている。また、管理者はそのための職員指導も行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人に合わせた声かけや説明を行い、利用者の理解を得た上で生活支援を行うよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マンパワーを充実させることにより、利用者一人一人のペースに合わせ、個人の希望に沿った最大限の支援が出来るよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の身だしなみは、利用者個人の意向に沿って身支度を整えられるよう配慮している。また、美容ボランティアを依頼したり、職員や家族と共に美容院に行けるように体制を整えている。		

グループホーム かあちゃん家

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

グループホーム かあちゃん家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が可能な利用者には、小遣い程度のお金の所持をして頂いているが、商店等が近くでない立地条件のため、お金を使う機会は少ない。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>それぞれの体力に合わせ、菜園での作業や散歩を日課にしている利用者が多く、戸外へ出かける機会は多い。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>外出・外泊は利用者の希望に沿って行っている。家族に同行を依頼するケースが多いが、家族の都合がつかないなど困難な場合は、家族の承諾を得た上で職員が付き添い外出している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から定期的に電話を頂くよう依頼し、また希望により利用者からも好きな時に電話をかけたがり、手紙を出したり出来るよう支援している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間の定めはあるが、利用者の家族・友人等の都合に合わせ、好きな時に訪問していただける環境になっている。面会時も、利用者の居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全ての職員は、身体拘束の利用者に与える影響を理解しており、拘束を行わない介護を実践している。</p>		

グループホーム かあちゃん家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

グループホーム かあちゃん家


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体拘束のない生活の中で起こり得るリスクについて、家族に説明を行い、理解と協力が得られるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェックを行うとともに、顔色・食事状況・歩行状態・排泄状況などの観察を行い、利用者の体調変化に気づくよう配慮している。利用者の体調に変化があった場合、管理者・主治医と連携をとり、早期対応が出来るよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者の内服薬についての知識を持ち、管理・服薬支援を行っている。利用者の内服薬が変更になった場合など、記録やミーティングを利用し伝達・情報の共有に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々野菜を取り入れ、利用者が食物繊維の多い食事を摂取できるよう心がけているが、一人一人の排泄状況を観察し、個々の体調に合わせて水分摂取を促したり、運動を勧めるなど対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを実施している。一人では困難な利用者に対しては、職員が支援して口腔内の清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理のもと、栄養バランスの取れた食事を提供できるよう努めている。また、利用者一人一人の食事・水分摂取状況を観察し、嗜好や嚥下状態も含め、個々に合った食事や十分な水分摂取ができるよう配慮している。		

グループホーム かあちゃん家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者・職員ともに、毎年同意のもとインフルエンザワクチンを接種し、感染予防に努めている。また、他の感染症に関しては感染症マニュアルを作成し、職員間で対応方法の共有をはかっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食品の使用や賞味・消費期限の重視により、安全な食品の提供を行っている。また、調理時は手洗いとエプロンの着用を励行し、調理器具・食器類は、食器洗浄器と乾燥機の使用により、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や植木鉢を配置して、心地よい環境作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや食堂などの共有空間は、開放的で統一感のある造りになっており、居心地の良い空間を提供している。また、居間にはこたつと薪ストーブを設置することで、冬季の憩いの場となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブル等を配置し、利用者が集いやすい環境となっている。また、囲碁などを置く事により、それぞれの利用者が各々の趣味を楽しめる場でもある。		

グループホーム かあちゃん家

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室には、本人の使い慣れた家具や寝具を持ち込み、自宅で過ごしていた時同様の居心地の良い環境になるよう配慮している。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>エアコンを設置し温度調節を行っている。また、ロスナイにより、常時静音にて換気を行い、においや空気よどみが気にならないよう配慮している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>床は全面バリアフリーで、壁には手すりを設置することで、利用者が安全に歩行できる環境を整えている。また、広いホールを利用し、それぞれの身体能力に適した運動が可能である。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の目線の高さに、それぞれの居室の室名を掲げ、トイレや浴室にもわかり易い表示をすることで、混乱や失敗の防止し努めている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ウッドデッキを設置することで、外の景色を楽しむ事ができる。また、ホームに隣接した菜園への出入りも可能で、利用者が野菜や花などを栽培したり、収穫することが出来る環境になっている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム かあちゃん家

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然と人情味豊かなこの地で 利用者も職員もかあちゃん家の家族の一員として自分の居場所があり、季節折々のわらびなど山菜を採ったり、菜園で野菜を作って収穫をし日々の食事作りに活かして生活感を出し、地区内の運動会、文化祭、クリスマス会などの行事に参加し、また、農家の方が作った豆を預かり選別をするなど地域内での役割を担う一人として生き活きと暮らせる場所です。